

平成30年度環境とやま県民会議 事業報告

1 統一活動

私たちは、廃棄物などの身近な問題から地球温暖化をはじめとする地球的規模の問題に至るまで様々な環境問題に直面している。これらの環境問題に適切に対応し、本県の素晴らしい環境を次の世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりが、環境について学び、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、少ない資源、少ないエネルギーで生活する循環型社会と低炭素社会づくりを目指して行動していくことが求められている。

また、平成30年10月に開催された「3R推進全国大会」を契機に、3Rの取組みなどエコライフの普及啓発や環境保全活動を積極的に展開する必要がある。

こうしたことから、当県民会議では、引き続き統一活動として「とやまエコ・ストア制度」の普及・拡大を図るとともに、とやま環境フェアなど各種イベントを開催し、県民のエコライフの定着・拡大を呼びかけた。

また、当県民会議では、①「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」、②「とやま節電・省エネキャンペーン」、③「環境教育・環境保全活動の推進」を事業の柱とし、これらを中心として、県民、企業、民間団体、行政が情報を共有し、一体となって事業を展開した。

2 事業内容

(1) 循環型社会と低炭素社会づくりの推進

<循環型社会づくり>

① とやまエコ・ストア制度普及・拡大事業の実施

・主 催 とやまエコ・ストア連絡協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団

・実施期間 平成30年4月～平成31年3月

・内 容 とやまエコ・ストア制度登録事業者が県民と協働で行う環境配慮行動や富山の環境に関する情報をスマートフォン用アプリ等により県民に発信し、県民の環境配慮行動を促進するとともに、「とやまエコ・ストア制度」のさらなる普及・拡大を図り、県民のエコライフの定着・拡大を図った。

このほか、富山県ごみゼロ推進県民大会において、エコ・ストア優良取組事業所の表彰を実施した。

・実 績 登録状況 (73社、1,089店舗・6商店街、平成31年3月現在)

② 「いつでも、どこでも3R」の促進

(ア) キックオフイベントの開催

3R推進全国大会に向けて、マイバッグ持参や食品ロス削減など様々なライフスタイルに応じた3R活動の取組みを拡大するためのキックオフイベントを開催した。

・主 催 環境とやま県民会議、富山県、(公財)とやま環境財団

・実施時期 平成30年6月23日(土) (エコライフ・アクト大会)

・内 容 「いつでも、どこでも3R」事業の紹介、キックオフ宣言、トークショー (小型家電リサイクル等の啓発) 等

(イ) いつでも、どこでもマイバッグ運動の推進

- ・主 催 富山県
- ・内 容 マイバッグ所持の定着やコンビニエンスストア等におけるマイバッグの利用促進を図るため、レジ袋を断りやすくする店舗向けの啓発資材やマイバッグ所持の定着を図る携帯型マイバッグを作成・配布し普及啓発を図った。
- ・実 績 啓発資材：缶バッジ2,100個、レジシール1,400巻、ポスター520枚をコンビニへ配布
マイバッグ：5,000部を婦人会等を通じて配布

(ウ) いつでも、どこでもリサイクルの促進

- ・主 催 富山県、市町村
- ・内 容 小型家電リサイクルのさらなる促進を図るため、消費者が買い物の際に家電量販店へ使用済小型家電を持ち寄る仕組みを、家電量販店、リサイクル事業者、行政の連携により構築した。
- ・実 績 県内全ての家電量販店（5社・33店舗）で小型家電の回収を開始

③食品ロス削減県民チャレンジ推進事業の実施

- ・主 催 富山県
- ・内 容 県民総参加による食品ロス削減の取組みについて実践を促し、その効果を実感し継続につなげるため、食品ロスを出さない期間（平成30年8月1～7日の1週間）を設定し、グループ単位で食品ロスの廃棄ゼロを競うキャンペーンを開催した。また、楽しみながら食品ロス削減に取り組めるサルベージ・パーティについて、その自主的な開催を促進するため、セミナーの開催に対し講師の派遣などの支援を行った。
- ・実 績 キャンペーン：約19,000名参加、推計約6.8tの食品ロスを削減
セミナー：全10回開催、約270名参加

④3R推進全国大会の開催

- ・主 催 環境省、環境省中部地方環境事務所、富山県、3R活動推進フォーラム
- ・開 催 日 平成30年10月12日（金）（3R推進月間）
- ・会 場 富山国際会議場メインホール
- ・内 容 表彰式、基調講演、事例発表、パネルディスカッション、ブース展示
- ・参 加 者 600名

⑤3R活動体験・学習コーナーの設置

- ・主 催 富山県
- ・開 催 日 平成30年10月13日（土）、14日（日）（3R推進月間）
- ・会 場 <とやま環境フェア> 高岡テクノドーム
<サイドイベント> イオンモール高岡

- ・内 容 体験型のブースを設けて3Rを学び・体験する機会を提供した。
 <とやま環境フェア> 小型家電リサイクル啓発ワークショップの開催（小型家電の分解体験、講師の説明）、パネル展示
 <サイドイベント> 食品ロス削減啓発映画（「0円キッチン」）の上映、リユース講座の開催

⑥とやま環境フェアの開催

- ・主 催 とやま環境フェア2018開催委員会
- ・開 催 日 平成30年10月13日(土)、14日(日)（3R推進月間）
- ・会 場 高岡テクノドーム（富山県産業創造センター）
- ・内 容 水と緑に恵まれた富山県の豊かな環境を守るとともに、よりよい環境を創造するため、循環型・低炭素・自然共生をテーマとした各種展示や実演、発表等を行い、環境保全活動の啓発を行った。
- ・参加者 約15,000名

⑦ごみゼロ推進県民大会の開催

- ・主 催 環境とやま県民会議、富山県
- ・開 催 日 平成30年10月13日(土)（とやま環境フェア2018と併催）（3R推進月間）
- ・内 容 廃棄物の減量化やリサイクルの推進に関する関係者の理解を深め、ごみゼロ社会への取組みを推進するため、功労者表彰や活動報告等を行った。
 環境とやま県民会議会長表彰
 ごみゼロ・リサイクル推進功労者 3団体1企業
 地球温暖化対策推進功労者 1個人1団体
 とやまエコ・ストア制度に関する活動 1事業所
- ・参加者 約150名

<低炭素社会づくり>

①エコドライブ推進運動の実施

(ア)エコドライブの推進

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・開催時期 平成30年4月～平成31年3月
- ・内 容 窒素酸化物や二酸化炭素の排出量の削減のほか、燃料消費量の削減等の効果のあるエコドライブについて継続した実践を促すため、各種イベント等において普及啓発を行った。
 併せて、エコドライブとやま推進協議会が募集しているエコドライブ宣言に協力し、エコドライブ実践者の拡充を推進した。

(イ)エコドライブ実践促進事業

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)と

やま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）

- ・開催時期 平成30年10月13日（土）、14日（日）
- ・内 容 気軽にエコドライブを体験できる機会を提供するため、とやま環境フェア会場において、仮想的にエコドライブを体験できるシミュレーターを用いた体験会を開催するなど、エコドライブの一層の定着・拡大を推進した。
- ・実 績 約500名参加

②ノーマイカー運動への参加

- ・主 催 富山県公共交通利用促進協議会
- ・実施時期 平成30年9月20日（木）【バスの日】～10月14日（日）【鉄道の日】
- ・内 容 公共交通の利用拡大と環境負荷低減を目的に実施されるノーマイカー運動に参加することで、過度にマイカーに依存した生活を見直し、エコライフスタイルへ転換するきっかけとした。

③「COOL CHOICE」の普及促進

- ・主 催 環境省、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 平成30年4月～平成31年3月
- ・内 容 各種講習会や環境イベントを通じて、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択などの普及啓発を行い、地球温暖化対策に資する国民運動の「COOL CHOICE（賢い選択）」の拡大・定着を図った。
併せて、各種イベント等において賛同登録者の募集を行った。

④エコアクション21推進事業の実施

- ・主 催 富山県、（公財）とやま環境財団（エコアクション21地域事務局）
- ・実施時期 平成30年4月～平成31年3月
- ・内 容 中小企業向けの環境マネジメントシステムである「エコアクション21」制度の普及を図るとともに、「エコアクション21自治体イニシアティブ・プログラム」を実施し、事業者の認証・登録を促進し、持続可能な社会づくりを図った。
- ・実 績 認証・登録：122事業者（平成31年3月末時点）、自治体イニシアティブ・プログラム参加事業者：8事業者

(2)とやま節電・省エネキャンペーン2018

①クールビズ、ウォームビズ、うちエコ！の実践

- ・主 催 環境省、環境とやま県民会議
- ・開催時期 夏季、冬季
- ・内 容 夏のオフィスのエアコン設定温度を28℃とし、涼しく快適に過ごすために軽装（クールビズ）を実践した。また、冬のオフィスのエアコン設定温度を

20℃とし、暖房に頼りすぎず、快適に過ごすビジネススタイル（ウォームビズ）を実践した。

さらに、クールビズ、ウォームビズの取組みをオフィスから家（うち）の中まで広げて「うちエコ！」を実践した。

②ライトダウンキャンペーンの実施

- ・主 催 環境省、富山県、（公財）とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・開催時期 平成30年6月21日（木）、7月7日（土）
- ・内 容 夏至と七夕の夜8時から10時までの2時間を特別実施日として設定し、「ライトダウンする夜は、みんなが地球を想う夜。」をスローガンに、家庭の不要な電気の消灯や、安全面、防犯面等で支障のない範囲での消灯の協力を呼びかけた。
- ・実 績 協力施設：442施設

（3）環境教育・環境保全活動の推進

①環境とやま県民会議総会、エコライフ・アクト大会の開催

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団
- ・実施時期 平成30年6月23日（土）（環境月間）
- ・会 場 ファボーレ 太陽の広場（富山市）
- ・内 容 環境とやま県民会議総会を開催し、活動方針を報告した。また、同日、エコライフスタイルを推進するため、エコライフ・アクト大会を開催した。
- ・参加者 約200名

②エコライフ・イベントの実施

- ・主 催 県内10市、富山県、（公財）とやま環境財団
- ・実施時期 平成30年4月～平成31年3月
- ・内 容 地域での取組みを推進するため、県内10市において、地球温暖化防止やごみゼロなどのテーマに関する、「エコライフ・イベント」を実施した。また、構成団体ではブース出展等に積極的に参加し、エコライフの普及を図った。
- ・参加者等 約43,780名

| 市 | 期間 | テーマ | 参加人数 |
|-----|-----------------------------|----------------------------------|----------------|
| 富山市 | 7月26日～11月28日 | エコライフ・イベントの推進 | 2,000名 |
| 高岡市 | 10月16日（火） 12月13日～翌年3月29日 | 環境に対する意識の育成 | 70名 14,000名 |
| 黒部市 | 9月2日（日） | エコライフスタイルの促進 | 3,900名 |
| 魚津市 | 9月29日（土） | 山から海 自然を守り 未来へつなごう 水・潤・歓（水循環） | 800名 |
| 氷見市 | 6月3日（日） | ごみゼロ及びリサイクル活動の普及啓発 | 1,000名 |

| | | | |
|------|-----------------|------------------|---------|
| 滑川市 | 11月3日（土） | 環境問題 | 350名 |
| 砺波市 | 11月25日（日） | エコライフの推進 | 8,000名 |
| 小矢部市 | 11月10(土)、11日(日) | 地球温暖化防止 | 10,000名 |
| 南砺市 | 4月7日～12月9日 | エコビレッジ構想の普及啓発 | 460名 |
| 射水市 | 9月30日（日） | エコで育もう！豊かな自然豊かな心 | 3,200名 |

③環境保全・環境教育に関する活動支援事業の実施

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 (公財)とやま環境財団に環境保全相談室を設置し、各種相談に対応するとともに、幼児とその保護者を対象としたエコライフ教室を実施したほか、県内で行われている様々な環境保全・環境教育活動について、ウェブサイト「エコノワとやま」を通じて情報発信し、環境保全・環境教育活動の拡大を図った。
- ・実 績 エコライフ教室：10カ所

一部新 ④とやま環境未来チャレンジ事業の実施

(ア) とやま環境チャレンジ10事業

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 小学4年生（10歳）の児童が、家庭で地球温暖化防止や富山物質循環フレームワークを踏まえた3Rの推進、食品ロス削減等のための10の取組みを4週間実践することにより、児童と家族の環境保全意識の高揚及びエコライフの定着を図った。
- ・実 績 県内全市町村で合計64校、児童3,503名

新 (イ) 食品ロスゼロチャレンジ事業

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 家庭科の授業が始まる小学校5、6学年生を対象とした食品ロス削減の学習を推進するため、授業に活用できる啓発資料を作成した。
- ・実 績 食品ロスに関するパンフレット「食品ロスゼロを目指してみんなでチャレンジ！」を10,000部作成し、一部を県内の小学校へ配布した。

⑤スターウォッチング推進事業の実施

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・開催時期 平成30年8月3日（金）
- ・内 容 大気汚染のない清澄な大気や街の明かりによる光害について理解を深めるとともに、身近な環境保全活動の実践を推進するため、星空観察会を開催した。
- ・実 績 星空観察会：約200名参加

⑥はじめてのエコライフ教室の実施

幼児期から（家族ぐるみで）エコライフの理解・実践・定着を図ることを目的として、幼稚園・保育所等に地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣し授業を行う「はじめてのエコライフ教室」を実施した。

- ・開催時期 5月～12月
- ・実施園数 10園
- ・参加者数 414名（幼児 361名、保護者 53名）
- ・内 容 省エネやごみの分別等のエコライフの説明、児童・家庭によるエコライフの取組の実践（3項目、1週間）